

水産国 日本の復活に役立てて 前橋の宝島技術 カキ養殖で新装置

更新日時: 2019年7月24日(水) AM 06:00



新たに開発した装置を紹介する小島社長

カキの成長を促す装置の開発を進める群馬県の宝島技術(前橋市千代田町、小島昭社長)は、新たな装置を製品化した。カキの餌となる植物プランクトンを増やす効果が期待できる鉄板を箱状に組み合わせ、部品交換を必要としない使い切り型に改良。既に宮城や静岡のカキ養殖業者が試験導入している。

◎鉄製箱でプランクトン増殖 実証実験で重量3割増に

新装置は「牡蠣^{かき}養殖サプリメント・宝島Box」。鉄製の箱(幅15センチ、奥行き15センチ、高さ40センチ)で、内部に炭と腐葉土が入っている。養殖用いかに取り付けて海中に沈めると、植物プランクトンが増え、カキの成長を促すうま味成分のグリコーゲンが増すという。1個税抜き8500円。

小島社長が群馬高専の教授だった2012年から民間企業と開発を進めてきた装置「鉄デバイス」が基となっている。鉄デバイスは袋の中に鉄板や炭、腐葉土を入れたもので、東日本大震災で壊滅的な被害を受けた岩手県山田町の養殖場で実証実験。設置後に海中の鉄濃度が高まり、カキのむき身重量が従来より30%、うま味の目安となるグリコーゲンの含有量が70%増えた。

「部品の交換が難しい」という業者の声に応え、使い切り型に改良した。4月から宮城と静岡の養殖業者が試験導入しており、反応は上々という。

宝島技術は、鉄デバイスの研究成果を水産業の活性化に役立てようと、小島社長が18年10月に3人で設立した。売上高は2年目に1億～2億円、3年目に5億円を目指している。

小島社長は「装置を使えば、大きくおいしいカキが取れる。水産国日本の復活に貢献したい」と意気込む。カキの生産量が多い広島、岡山、宮城を中心に、商社経由で普及を目指していく。

小島社長は16年まで群馬高専で教授や副校長などを歴任した。18年1月から前橋総合技術ビジネス専門学校で校長を務めている。